

お泊り保育での感動エピソードです。

～子どもたちの励まし合いにほっこり～

日中は元気いっぱい思いっきり遊んでいても、夕方を過ぎ、だんだんと暗くなっていくと、夕食、お風呂の準備などのあいまのふとした瞬間にお母さんのこと、お家のことを思い出し、涙が出てしまうお子さんがいました。泣いている姿を見て、心配そうに4・5人の子どもたちが集まってきました。「どうしたの?」「なんで泣いてるの?」「お母さんがいって思ったんでしょ?」と寂しい気持ちに寄り添おうとし、「うん。」とうなずくと、「ほくもねー、ちょっと前におばあちゃんの家で一人で泊まった時、寂しくなったよ。」「お父さんとお母さんがけんかした時、すごくいやだなんて思って泣いたんよ。」と自分の悲しかった体験を話して、思いを共感してあげようとし、「悲しくなったら、泣いてもいいんよ。でもちょっと泣いたら、またがんばらんとね。」と大人顔負けの言葉で励ましたりなどする仲間たち。つらい気持ちを理解し、仲間をなんとか励まそうとするに保育者が入って、言葉をかけることはしなくてもいいな、子どもたちだけで乗り切れるなと感じ、その後も見守っていると、泣いている子が立ち上がり、「歯磨きに行く。」と小声ながらも告げ、みんなと一緒に行きました。

小さな時からずっと一緒に過ごしてきた仲間。これまでも、そしてこれからもけんかをして、思いをぶつけあうこともたくさんあるでしょうが、自分のことだけではなく、周りの人の気持ちも理解し、困っていれば助けてあげようとするその姿に成長を感じました。

仲間っていいね。みんなで大きくなっていこう。



こんなエピソードも・・・

2日目の朝、なんだかしわしわの服を着ている子が数人。「その服って、昨日着ていたものじゃないの?」と聞くと、「えっ?」といった表情で「だってー、服、どれかわからなかった。」という返事が返ってきました。一緒にカバンの中を探すと、どの子もちゃんと2日目の服が入っています。あらあら、お泊り保育の準備の際に、お家の人と一緒にやっていたのかな?

お泊り保育は、「自然の中で、日頃できない体験をしてみよう」というねらいもありますが、子どもたちは「自分のことは自分でしよう」という心がまえで過ごします。しかし「自分のことは自分で...」というのは、このお泊りの保育の時だけががんばってできることではありません。排泄、食事、着替え、自分の物の整理など上手くできなくても、失敗しても、時間はかかっても、どんどん挑戦させてあげましょう。小さい時からの積み重ねが大切です。お父さん、お母さんも大変お忙しいとは思いますが、小さな子どもたちの日々の挑戦をどうか励まし、褒め、温かく見守ってあげてほしいと思います。



展望台まで上がりました。みんなでハイ、ポーズ



バウムクーヘン、うまくできたよ!

